

## 桃山公園の魅力向上事業説明会（8月開催）

日 時 令和3年（2021年）8月29日（日） 14:00～15:30

場 所 ①千里市民センター 大ホール

②桃山台市民ホール

③吹田市役所 南千里庁舎3階 会議室

参加者 ① 110名

② 17名

③ 17名

議 事 本事業の趣旨及び事業者公募の考え方の説明

### 意見と回答

#### 市民

- ・市長は、桃山公園にどれぐらい滞在して桃山公園の実態を知っているのか。前の説明会で、10月頃に行ったということを聞いた。公園みどり室はそのとき、図面を持って随行しなかったとのこと。

#### 市長

- ・桃山台テニスコートにはたびたび行っている。その際、車を手前のURの駐車場に止め、桃山公園の中を歩いて、途中にはトイレにも寄り、オーバブリッジと新御堂を越えて、帰りもまた通っている。時には1周回って帰ることもある。
- ・土木部長として公園を所管していたので、通常の職員よりはるかに見ていると思う。

#### 市民

- ・テニスコートもグラウンドも見ているということ。テニスコートは管轄が違うようだが、10年以上前に民間事業者に委託しているそうだ。とても荒れているのを市長は感じているのか。
- ・私は市長の話を30分聞いて、どこがポリシー、どこが哲学なのか感じられなかった。
- ・私の考えは、みどりは命を育むもの。たくさん食べものはどこにでもなんでもあり、レストランは選べる。着るものも十分にある。だけど、それだけでは人間は育たない。私は歩いて行けるところに住んでいるが、元気でいられるのは桃山公園のみどりがあるからだと思う。
- ・P-PFIは、事業者任せにしてしまうわけで最初は5台かもわからない。12%まで拡大できるということを、市長は知っていると思うが、12%分は事業者が自由に使えるということ

なのでは。儲けを除外して奉仕に徹するというをどこまで市は責任を負えるのか。

市長

- ・みどりに対するポリシーについて、かつてのニュータウンは里山だった。山あり谷あり川があつて、ため池があつて、うさぎがいて、この間までキジもたくさんいた。すべての木を切り、山を削り、谷を埋め、フラットにして今のニュータウンと万博会場ができています。
- ・当時、みどりというのは除去するものであった。ニュータウン造成後、非常に良い環境ができて、その申し訳程度に街路樹を植えたら50年経ってこんなに素晴らしいまちができました。1次的自然と2次的自然という言い方をしますが、今のニュータウンの自然は2次的自然によるものである。だから切って良いというわけではないが、今、私たちがどういう経過を経てこの素晴らしいまちに住んでいるのかということも少し考えてほしい。
- ・防災、景観、道路交通上の安全性などにより木を切ることもあるが、無駄に切ることには考えていない。
- ・テニスコートは、北大阪急行の車庫の上であり、あそこをきれいに整備してほしいと散々ご要望を受けるが、手をかけることはできない。野球場に関しては、なかなか素晴らしい野球場で特に問題はないと思う。
- ・駐車場の12%について、仕様書に5台と書くので6台にはできない。事業者の自由度はない。事業者に丸投げしたときは上限の12%まで整備することができるが、今日の説明会の内容のとおり、大幅な制限をかけた。これを破ることはできない。

市民

- ・行政は無力だということは、ご存じないのか。

市長

- ・どういう点で無力なのか。お聞きしたい。

市民

- ・いろいろな問題が日本中で起きている。

市民

- ・同じ人ばかりが質問している。

市民

- ・すみません。後でまた。

## 市民

- ・こういう催しは、一人のためにあるのではないので、みんなにしゃべっていただきたい。
- ・私は、桃山公園に昭和 43 年からなので約 50 年いる。最初に来たときは市長が言うように、木なんてぺんぺん草が生えてただけでひどい公園であった。そうしてこの 50 年であれだけのラクウショウが生い茂った。そのラクウショウですら間伐で 10 本か 15 本くらいは切らないといけないのではないかと思う。そういうことは誰も何も言わない。公園を良くしたいというのはそういうことだと思う。気色の悪い公園であったが、吹田市の力で護岸工事をして遊歩道を作った。これは画期的だったと思う。それがあの公園にたくさん人が来るようになった大きな原動力である。そういう歴史というのは、吹田市はよく頑張っていると思う。
- ・ここに来ている方は、たくさん木を切るのはだめと言うが、実は 3 丁目の 39 から 35 の間に松の木がいっぱいあった。それを 10 数本伐採した。3、4 本はマツクイムシで切り、残りの 5、6 本はなぜ切ったかといえば、松の木の花粉が洗濯物にいっぱい付くから切っしてほしいと要望があり切った経緯がある。ひこうき遊園でも、ケヤキがたった 100 坪のところにも 15~16 本あり、5~6 本切った。意外にここにいる市民の方が積極的に伐採している。そういう事実を横に置いておいて、吹田市が今度こういうことをするというと、目の色を変えてみんな反対するが、私は、ここに素晴らしい施設が建ったら非常にありがたいことだと思う。なぜかというと、ニュータウンを活性化するのは大変なことで、その中で、こういうところに施設を設けたら私は嬉しい。なぜかというと、その地域のマンションや住宅地の値が上がるから。これより素晴らしいことがどこにあるのか。

## 市民

- ・間違っている。

## 市民

- ・間違っていない。お金のことを言ったら、みんな諸悪の根源みたいなことを言うから。

## 市長

- ・土木部が何に悩むかというと「木を切れ」と「木を切るな」の両方の声で悩んでいる。「強剪定をなぜするのか」、「早く切らないと落ち葉が落ちてくる」、「木そのものを切れ」、「みどりが多すぎる」、みなさん信じられないと思うが、その声が年間 1,000 件ほどあり、直接届く。一方で、「1 本たりとも切るな」、桜に洞が入って倒れると危険なので切ると「桜を切った」と大騒ぎになる。吹田あるあるであるが、その狭間で土木部が非常に苦勞していることであり、そこを調節するのが私たちの仕事である。



市長

- ・私は、土木部の上司であり市民の代表である。これが土木部長と立場の違うところ。市民みなさんの代表でもある。一方で行政のトップでもある。だから、両方のお声を聞いて、これは違うなど、自らも部下に対して相当厳しいことを伝えた。そこでちょっと待てと、土木部から「私たちは公園みどりに関してこういうことを考えて、こういう哲学を持ってやってきているのだ」という反発があれば。私は任せていた。身内の恥を晒すようだが、目的が P-PFI になっていたと、これはいかんと。こんなことで私が出てくるのは本当にイレギュラーだ。いっぱい事業がある中で、吹田市の 1,000 億、2,000 億の予算の中でこういうことをしたのは初めてで、それくらい大事に思っている。
- ・それから、今後変わらないのかという話について、楔を打たなければならない。みどりの基本計画の公園の書き方が弱いなど思っている。それは今度の見直しのときに必ず書き換えさせる。それが計画として残ったら行政は良くも悪くもそのとおりに進めるので。そこに書いていないことはできない。それは議会のみなさんも見ていて、何に基づいてやるのかという話になってくるので。そこは行政の継続性を信じてほしいと思う。

市民

- ・桃山公園で竹の整備をしている。市報すいた 9 月号を持参したので、市議員の方が書いていることを読みたいと思う。質問書もそちらに渡しているので、市長に渡してほしい。市民のみなさんは帰ってこれを見ればよくわかると思う。

市長

- ・もう少し具体的に言ってほしい。

市民

- ・具体的に言うと、市報すいた 9 月号吹田市会議の 7 ページにある、日本共産党 柿原議員が書いている桃山公園の再整備について、「公園整備の事業を年度内に決定することは再検討すべきである。市長公約が急ぐ理由だと考えるが、公約で収益施設があることは書かずにパークマネジメント手法というわかりにくい表現を使った意図は何か。」という質問をしている。私がなぜこんなことを言うかということ、市報を頻繁に読んでいて、この中で公約という言葉が目についた。前回も今日も説明していたので公約ということもないことになるが、公約とは何かということ調べた。答えがどう書いてあったかということ、従来の公園管理と異なることを表現しており、新たな公園管理法として一般的に使われているが、必要に応じて担当からの。

市長

- ・要点を言っただけか。何を答えれば良いのか。

市民

- ・要点を答えると書いてあるので、これは市民のみなさんが読むのだから、今日ここへせっかく来ているので、議会でやっていると思って要点を答えてほしい。

市長

- ・何の要点を答えれば良いのか。

市民

- ・意味が分からないのか。日本語が分からないと。じゃあ、一度みなさんで自分の家に帰って市報を読んでほしい。

市民

- ・前の説明会でも質問したが、まともな答えになっていない。まず、駐車場の必要性が全くない。この公園は駅前にあり、身体の不自由な方が来ることを考えても電車で来ても桃山台駅でエレベーターが使える。すぐ近くの春日の交差点にも大きな駐車場があり、竹見台にも駐車場が何か所かある。どうしてさらに駐車場を作る必要があるのかと前の説明会でも言ったが、まともな答えになっていない。5台の駐車場にすると説明していて、バリアフリーとか身体の不自由な方を考えて作るとのことだが、駐車場は身体の不自由な方の専用になっているのか。それとも誰でも利用できるのか。誰でも利用できるのであれば、身体の不自由な方のために作られているとは思わない。専用になっているか、なっていないかを答えてほしい。

市長

- ・専用にはしない。優先。おそらくマークは付ける。あれは優先マークだ。

市民

- ・おそらく。

市長

- ・そのような言い方であれば、吹田市中の公園に駐車場はいらなくなる。これは行政の方針、バリアフリー方針なので、その使い方は最適に行う。

市民

- ・最適に行うと言われても。

市長

- ・何を懸念しているのか。全部がバリアフリーの優先の駐車場であるべきと思っているのか。

市民

- ・もし、身体の不自由な方のために作るのなら専用にするべき。しないということは他の目的があるのでは。

市長

- ・もし、他が目的なら5台で済まない。30台になる。

市民

- ・20台でもできる。

市民

- ・今回、駐車場を作る目的であるが、桃山台駅周辺には割と大きな駐車場が全然ない。だから、都市計画の中で駐車場を作って、そういった人を集めるような施設を作ってから公園の駐車場5台を作るならわかる。例えば、先ほど市長もテニスコートに行ったときにURの駐車場を使ったと言っていた。この5台の駐車場を作ったときにテニスコートを利用する方や駅利用の方が先に停めてしまったらバリアフリーの方が使えなくなる。5台の駐車場を作る前に桃山台駅周辺の都市計画で土地利用の基本的な考え方をもう一度やっただうえで、桃山公園の駐車場というのであれば話がわかるが、いきなり5台の駐車場という話はどうなのか。5台の駐車場がなぜいるのか、そして担保はどこにあるのかというのが非常に心配である。

市長

- ・5台の駐車場は、土木部が説明したかどうかわからないが、あの規模の公園の中で駐車場がないのは桃山公園だけのはず。それだけ整備が遅れていた。段々と整備してきたが、バリアフリー対応や高齢者も含めて駐車場というのは公園に必置であり、それができていない。今回、これを契機に作るもので、「じゃあ30台か」、「そんないらんやろ」、「そやけど0台か、それは市民に責任を果たしていない」、その結論として5台になった。あの公園の規模も考えての話である。あとは、運用の問題であるが、それを勝手にみなさんが使って、障がい者が来たときにそこに停められないということは、運用の問題で解決しなければならないと思っている。ご意見ありがとうございます。

市民

- ・今回、5台の設置ということであるが、30台のところを5台にしたということは、業者の方が搬入に使う施設なのでは。桃山台駅にお店があるが、搬入するのにエレベーターもないから階段を下りて作業している。私は5台というのはそういう施設を作るための駐車場じゃないかと思っている。バリアフリーで5台なんてそんな馬鹿なこと。搬入用で主に5台と言っているのではないか。

市長

- ・全く違う。

市民

- ・地球はつぶれかかっている。異常気象で世界中が大変なことになっている。それは我々が自然を破壊してきたから。楽しい生活を送るために贅沢をしてきたからである。このツケを次の代に残すなんてグレタさんがカンカンになって怒っている。それで初めて大人は自分たちが自然を壊してきたことに気が付いた。自然を壊すと修復はできない。地球温暖化のCO<sub>2</sub>を削減してくれるのは植物に頼るしかない。だから、桃山台の公園の樹木を1本でも大事にして、自然を大事にして、みなさんのこうあったら便利かなと思うことはちょっと辛抱するような気持ちになって次の代に地球を残していくようにしなければならない。我々、大人の責任だと思う。便利ばかり考えて次の代はグラウンドがあれば良いだろう、そんな問題ではない。この異常気象に対してもっと考えてほしい。市長はじめ、みなさん、ちょっと鈍感ではないか。

市長

- ・この話をすると長くなるが、気象異常を防止する協定を吹田市と豊中市と両市長連名で宣言したのはご存知か。

市民

- ・みんな知っている。

市長

- ・日本全国でこのような協定はない。それから、NATS といって、西宮、尼崎、豊中、吹田、この消費圏域で大きな環境の取組や消費行動の変換に取り組んでいく。みなさんもその一員であり、スーパーの買い方を変えようという話である。
- ・全国的にも環境省からも、この圏域、特に吹田が環境先進都市だというのは、完全にそういう風に見られている。



市民

- ・そう思わない。

市長

- ・予算も割り当てられている。それから、CO<sub>2</sub>の話について、みなさんの話でたまに出ることがあり、手紙もいただいているが、CO<sub>2</sub>は成長段階で吸収され、成長しきった高木は逆にCO<sub>2</sub>を排出する。呼吸しているからである。だから、イコールCO<sub>2</sub>というお話は、あまりしない方が良いかと思う。それ以外の生態系の中でのみどりの大切さというのは非常に強く感じている。ただ、あのラクウショウは、今回は切らないと言っているだけで、あれだけの高密度であって、危険性があれば万博公園自然文化園の中と同様の対処になる。間引かないといけない時期が必ず来る。木はそういう存在である。自然の木、天然の木ではなく、都市の中の植えた木で50年前に誰かが植えた木である。元々あった木ではないので、そこはちゃんと管理しないといけない。それが自然を管理するということである。天然は触らない。

市民

- ・説明会の資料に公園の適切な維持管理、公園を愛するみなさんとともにというのも出していたが、非常に期待をするところである。ただ、話を聞いていると、要求意見を持っている人とそれを執行する責任を持っている人との分断があまり良い結果を作ってきてないというように感じる。それで、適切な維持管理を愛するみなさんとともにという。これは具体的にどのように連携するのか。どのように維持管理されるのかまだ見えていないが、非常に期待しているところである。
- ・その期待について、春日大池の水質などの水系管理は考えているのか。元々、春日大池はため池であり、他のため池と比べて深いということがあって、水鳥、冬鳥の飛来地になっている。それで一つの年間を通じた、数年間を通じた生態系を形成している。それについて、維持管理の中ではどのようなイメージをしているのか。今こう聞くのではなくて、住民との話し合いの中でのみなさんとともに、みなさんの中にテーマとしてそれを入れていただきたいと思う。

市長

- ・はい、ありがとうございます。

市民

- ・本日、この内容が今日決まったと説明したが、議会は大丈夫なのか。議員は怒らないのか、ちょっと心配である。それと、みなさんが心配しているのは、市長が急いでいるということである。急がないと市民にどのような不利益があるか、不利益を被らないために市長は

一生懸命に急いでいるのかという点を、議会は大丈夫かということと併せて答えてほしい。

市長

- ・一つは、今年度予算を議決いただいたので、もう時計が回っている。当初の計画では8月中旬に事業者募集を開始するところを止めている。かといって、このまま来年度に持っていくわけにはいかない。まずは、P-PFIのチャレンジをする。それから、議会に関しては、議決されたのは公園を魅力アップする、P-PFI手法を用いるという話である。その中身というのは、詳細に説明していない。決めるのは、P-PFI事業者である。それに制限をかけるというのは、みどりの基本計画など、そこを根拠に出しているの、突然思いついたわけではなくて、本来の市の考えに立ち返ってという話でご理解いただければと思う。9月議会が開催されるが、みなさんも注目してほしい。この件に関して、質問が出てくると思う。そこでしっかりと説明をする。

市民

- ・延ばすとどんな不利益があるのか。

市長

- ・今年度やるという約束が反故になるということ。インターネット中継されているので、議会もぜひ、傍聴も来ていただけたらと思う。

市民

- ・今日は息子と参加しているが、コロナ禍で参加することに非常に悩んだ。敢えて参加したが、なぜ、この時期に説明会を開催するのか。想いを伝えるには発言しないといけないので開くということに対してたいへん疑問に思う。桃山公園について、子どもとずっと遊んだりして、そんな時代遅れな公園とも思わないし、遊戯施設がないから遊べなかったかということ、あそこで遊んでいける子もいっぱいいた。虫採りもできるし、生き物、カニやザリガニも採れたりする。楽しく遊んでいた公園で、遊戯施設がないと遊べない、お店がないと不便だ、時代遅れだ、駐車場がないと、すごく手入れが遅れているというようなことを言っていたが、私が近隣の池のある公園を自転車とかで回って見ると、逆にあんな公園の方が珍しくて良いのではないかなと思っている。
- ・飲食店のアンケートについては、最初から大いに疑問である。そもそも、本当にあれは有意性のあるアンケートだったのか。化粧品やお菓子メーカーとかが作っている誘導のためのアンケートだったのではないかと感じている。学生時代にアンケート調査なども勉強しており、必ず予備調査というものがあって、予備調査でした質問に対して答えとの有意性があるかどうか、テーマとの有意性があるかということ複雑な統計的な検索や検

定などをやったうえで初めて本調査にかかる。が、私たち住民は一切アンケートを受けた覚えがないし、予備調査をされた覚えもない。そういったいい加減なアンケートに基づいて進んでいる事業ということに対して、最初から疑問を感じる。アンケートされた方が本当にちゃんとそういう有意性のあるアンケートをとったという自信があるのか。ここがたいへん疑問である。

市長

- ・ここで話をすると少し長くなるが、必置ではない。だから、やりますとは一言も言っていない。ただ、お声を定性的にお聞きするためにアンケートを彼らがとった。ただし、1,400というのは、95%信頼限界でいうとはるかに多い数になっている。それはまた、直接アンケートをとった彼らと話をしていただいたら良いと思う。必ずしもそれをやるとは言っていない。そういうお声が強いということを我々が受けたということとご理解いただければと思う。

市民

- ・今後、この要求書というのが出てきたところで事業者選定に移るとのことだと思うが、事業者からの案が出てきたときに、説明会をするのか。それと、説明はいつ頃、誰がするのかということを知りたい。

市長

- ・今度、まず応募をする。何者か出てきたら全部これにかなっているかを審査して、1者に優先交渉権者で決める。最終的にそこから案が出てくる。ただし、募集のときにその案がすべてこの要件を満たしているか。この他にもいっぱいある。これは説明会でいろいろ問題となった案だけで、課題だけ。吹田市の環境基本計画、みどりの基本計画など、様々な計画に基づいているかを判断して事業者を決めるので、その時点でまた一から説明会をするということはない。先ほどあったように、市報にこういう形になるとかホームページに出すとかそういうことはある。事業者が事業説明として説明会をやることは決して否定はしない。行政からの説明会はこれが最後になる。

市民

- ・今日の説明で大体理解できた。私に関しては、内々でやっていると段々ヒートアップしてきてとんでもない方向にいつている。ただ、国交省の指針で、PFIに関しては確かに理想論。それと桃山公園の開発は、一種のユートピアのような感じがする。何でもかんでもやってみんなに喜びがある。ところが、こういう事業体は失敗する確率がものすごい。アメリカの例を見てもそう。だから公募設置管理制度にすると、市民にとっても行政にやっていただきたいのは当たり前のこと。ただ、失敗した場合は、新しい施設ができて参入して

きた事業者が公園の管理など、もろもろのことをするというので、失敗してほったらかしにして行政もとなった場合、結局、近隣住民が迷惑かかることは目に見えている。最悪の事態になった場合、行政のやることだけはきちっとしていただきたいなと思っている。

#### 市長

- ・PFI それと指定管理者制度は、ちょっとややこしい言葉になるが、単なる委託ではない。委託というのは、私たちがすべて決めてそれを下請けにやってもらうものである。ここが何か提案をすることはない。指定管理は、役所よりもノウハウを持っていて、他でもこんな仕事してきましたが、こんなことをやったらもっと良くなるのではというコンサルタント的な役割も果たすもの。PFIというのは、今度は金目の話になるが、そこのお金を回していくというもの。ちなみに、みなさんが座っているこの建物も椅子も全てPFI。PFIじゃなかったらこれは多分作ってない、できない。そういう良い面もあるが、今その借金を税金で払っている。先に建てて後から借金を払っていて、PFIにも良い面も悪い面もあるが、だからこれもチャレンジとなる。主導権を握っているのは行政であり、全部投げても後は好きにしてくださいというようなことは、中核市の吹田がやるはずがない。その牽制があるのが議会。10年20年後、私はいない。でも、議会は、メンバーが変わりながら10年20年市民の代表としてそれを決めていく。そのときの議会がOKといったらOKとなる。だからこそみなさん、若い人には言っているが、選挙来てくださいねと。議会は圧倒的な市民の代表で、そこと今やり取りをしているというところもご理解いただければと思う。ここが決議機関ではない。

#### 市民

- ・ビジターセンターというのは新しく出てきたものか。市長の話だと集会場のようなイメージができてしまったが、本来公園の成り立ちとかそういうものが掲示されているのかと思った。集会場は、ちょっと離れたところにあり、あそこに行くのかなとちょっと疑問に思う。あと、それが魅力的な公園にどうつながるのか、そういう類の箱は、あまりみんなに愛されなくて、ただ維持管理かかるようなイメージがある。先ほどエアコンとか言っていたが、誰もいないのにエアコンが効いているのはCO<sub>2</sub>の話と合わないのかなと思う。これが魅力的なものにつながるといった背景や、これによってどういう風になるのかを知りたい。

#### 市長

- ・非常に良い質問をいただいた。ビジターセンターは必置かというのと、他の公園を見たら管理事務所ですね。ここの違うところは、先ほども言ったが、3つの団体が自ら公園の維持管理に力を注いでいただいている。今日みたいな暑いときでも草を引いたり、苗を植えたりと。そのときにそういう3団体や、もっと他の方もいて、その人たちが一体

どこで過ごすのか。炎天下で過ごす場所があるのかといたら、有料の近所の喫茶店とか、私はよくわからないが、会議とか人の家などでやっていると思う。それは公園の中でちゃんとそういう場所を持つべきだと思う。

市民

・公園中ではなく、ちょっと離れたところにある。前の説明会もそこで行われた。そこで良いのではないかと思う。

市長

・そこは検討させてほしい。そこは自治会の建物ではないか。

市民

・所有者が誰なのかは知らない。

市長

・基本は土木部が維持管理をすべきと思っている。でも、どうぞ使ってくださいという話であれば自治会と協定を結んで使わせてもらうというのはいりえる。できればそこに置いたほうが良いだろうと。あと、先ほど言っていたようにビクターセンターは箱だけではない。公園の成り立ちや、植物の名前、ラクウショウとはいったい何なのか、あれはカモなのかカルガモなのか写真もきちんとしないといけないし、冬だけ来るのか、年中いるのか、池の深さはとかもある。

市民

・それこそホームページやデジタルとかで良いのではないか。

市長

・若い人はそれで良いと思う。

市民

・あと、先ほどの箱の件も、貸会議室のサービスなど、いっぱいあるし、稼働率の低い箱をいっぱい並べても意味がないと思う。

市長

・もし、そういうお声の方が多かったらやめる。

市民

- ・声があってからやめるのではなく、十分予測がつくと思う。

市長

- ・予測をつけて、いると言っているが、それと裏腹にそんなものはいらないという声が多  
数となったらやめる。

市民

- ・いらないと思う。

市民

- ・議会が納得できるかどうかを確認してほしい。

市長

- ・すみません。今の質問が最後で30分経過している。
- ・様々なご意見があると思う。怒りの感情もあると思う。何も決まっていない。こうしてご意見をお聞きしたからこそ今日の内容がでてきた。みなさんのお声がなければこうはなっていない。おそらくそのまま突っ走っていた。そういう意味でみなさんのお声に対して感謝を伝えたいし、これまで混乱を招いたことをお詫びしたい。ここからは、しっかり桃山公園を魅力ある公園にしていきたい。みなさんのお力もいただきたいと思っている。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。